

「さいたま市子ども読書活動推進計画」事業実施状況調査表(児童センター)

達成度		方向性	
A	目標以上に実施し、想定よりも大きな効果を得ることができた	A	拡大(新規含む)
B	目標どおりに達成し、想定内の効果を得ることができた	B	継続
C	あまり達成できなかったが、実現に向けて着手している	C	縮小(終了も含む)
D	未着手もしくはほとんど達成できなかった	D	未定

3つの基本方針  
 (1)楽しむ読書 (2)みんなで読書 (3)支える読書

部分については、記入不要です。  
 変更しないでください

施策	No.	計画掲載頁	施策の内容	所管・関連部署	事業名	事業の概要	平成28年度の事業実績		平成28年度の目標達成度		平成29年度の事業の方向性	
							内容(複数ある場合は分けて記入してください)	達成度	達成度の理由	方向性	方向性の理由	
2 地域での 取組	5	13	(3)児童センターにおける読書環境の整備	三橋	児童センターにおける読書環境の整備	職員によるお話し会やボランティアによる読み聞かせ、本の閲覧や貸出しなど、来館者が楽しんで読書に対する興味がわくような取り組みの実施。	おはなしの部屋の開催	C	11回の開催で、合計幼児50人、保護者47人が参加し、平均8.8人の参加となったが、前年度の参加者数を下回ったため。	B	広報やPRの工夫で、より多くの親子に読み聞かせの魅力を伝え、おはなしに親しめるようにボランティアと協力し継続して実施する。	
							ボランティアによるおはなし会の実施	B	年間参加者数66人でほぼ例年どおりの参加数だったため。	B	引き続き、ほぼ同数の参加者を目指して事業を継続する。	
							ボランティアによる読み聞かせの実施	B	年間参加者数325人でほぼ例年どおりの参加数だったため。	B	引き続き、ほぼ同数の参加者を目指して事業を継続する。	
							本の閲覧や貸出しの実施	B	年間貸出し数60人でほぼ例年どおりの参加数だったため。	B	引き続き、ほぼ同数の参加者を目指して事業を継続する。	
							本の読み聞かせの実施	B	毎回15人前後の参加があり、児童が自発的に参加しているため。	B	引き続き、ほぼ同数の参加者を目指して事業を継続する。	
							読書に関心を持つきっかけづくりとする職員による推薦図書を紹介	D	蔵書の整備から取り掛かったが、図書の紹介までには至らなかった。	B	推薦図書を4冊以上紹介し、幼児・児童・保護者に図書を手に取ってもらえるようにする。	
							図書室内図書の整備、希望者への貸出し	B	図書の適宜入れ替えをし、定期的に貸出し希望者がいるため。	B	大幅な図書の入れ替えは出来ないため、昨年と同等の目標を目指し事業を継続する。	
							地域ボランティアによる幼児向け「読み聞かせ」事業の実施	B	月1回程度実施し、毎回30組程度の参加があるため。	B	引き続き、ほぼ同数の参加者を目指して事業を継続する。	
							図書の貸出し・整備	B	全図書の整備により、貸出し件数の増加に繋がったため。	B	引き続き整備を進め、貸出しや閲覧増加に繋げる。	
							親子(0歳児)向け事業・絵本を読もうの実施	B	年2回実施し、絵本に親しんでもらうことができたため。	B	絵本の紹介等を含め、本に接する機会を増やす。	
							乳幼児事業における読み聞かせの実施	B	乳幼児事業で実施し、親子での効果があった。	B	引き続き、継続していく。	
							ボランティアによる小学生対象の読み聞かせの実施	C	参加者が少なかった。	B	周知し、参加者を増やすことを目指す。	
							ボランティアによる幼児対象の読み聞かせの実施	B	週1回幼児事業の終わりに読み聞かせを実施し、参加者が増加している。	B	引き続き、継続していく。	
ボランティアによる小学生対象の読み聞かせの実施	B	クラブの児童を中心に参加がある。	B	定期的に参加している児童がいるため、引き続き、継続していく。								
ボランティアによる乳幼児親子対象の読み聞かせの実施	C	毎月1~2回、実施しているが、参加者が少ない。	B	広報活動などにより実施の周知を図り、読書の楽しさを伝える。								
図書の貸出しの実施	B	貸出しの利用が継続的に見受けられた。	B	図書の充実に努め、引き続き、貸出しを行う。								
幼児向けの読み聞かせの実施	C	毎回4~5組程度の参加だったため。	B	周知方法、内容を再検討する。								
文蔵	浦和別所	与野本町	向原	児童センターにおける読書環境の整備	職員によるお話し会やボランティアによる読み聞かせ、本の閲覧や貸出しなど、来館者が楽しんで読書に対する興味がわくような取り組みの実施。	おはなし会の実施	B	年間参加者が320人と、親子で絵本に親しむ機会を提供できた。	B	引き続き、昨年同様の参加数を目指して事業を継続する。		
						図書の貸出しの実施	B	年間293件の本の貸出しを行った。	B	引き続き、昨年同様の利用を目指して事業を継続する。		
						おすすめ図書の設置	B	利用者の見やすい場所に設置し、定期的に入れ替えを行った。	A	今年度は図書担当を決めたため、更に子ども達が興味ある本や優良図書などを提供していく。		
						乳幼児と保護者向けの「ぶちお話し会」の実施	B	リピーターもでき、楽しく聞いてもらえた。また、読み聞かせ終了後、親子で話しを共有化していた。	B	日曜開催を継続することにより、父親が気軽に参加できる親しみやすい場の提供を目指す。		
						ボランティアによる乳幼児及び小学生向けおはなし会の実施	B	手遊びも含めておはなし会で楽しい雰囲気に参加していた。	B	昨年度と同様に事業を継続する。		
						読み聞かせボランティア「おはなしダンダン」による、幼児親子・児童向け「おはなし会」の実施	C	年間参加者数計164人で、平成27年度より51人減っているため。	C	中規模修繕により、4か月間休館になるため。		
						読み聞かせボランティア「民話の会」による、児童向け「おはなしひろば」の開催	B	年間参加者数計160人で、平成27年度より18人増えているため。	C	中規模修繕により、4か月間休館になるため。		
						「親子であそぼう0才、1才、2才以上」事業(それぞれ週1回実施)での読み聞かせの実施	B	毎回10組から20組以上の参加者があり、例年どおりの参加数だったため。	B	引き続き、昨年同数の参加数を目指して事業を継続する。		
						ボランティアによる紙芝居事業(月1回)「おたのしみシアター」の開催	C	参加者数が平均3人ほどしかなかったため。	A	「親子であそぼう2才」の事業の一環として組み入れる。		
						ボランティアによる幼児事業(月1回)「はらっぱ」での読み聞かせの実施	B	毎回10組ほどの参加者があり、例年どおりの参加数だったため。	B	引き続き、昨年とほぼ同数の参加数を目指して事業を継続する。		

「さいたま市子ども読書活動推進計画」事業実施状況調査表(児童センター)

達成度		方向性	
A	目標以上に実施し、想定よりも大きな効果を得ることができた	A	拡大(新規含む)
B	目標どおりに達成し、想定内の効果を得ることができた	B	継続
C	あまり達成できなかったが、実現に向けて着手している	C	縮小(終了も含む)
D	未着手もしくはほとんど達成できなかった	D	未定

3つの基本方針  
 (1)楽しむ読書 (2)みんなで読書 (3)支える読書

部分については、記入不要です。

変更しないでください

施策	No.	計画掲載頁	施策の内容	所管・関連部署	事業名	事業の概要	平成28年度の事業実績		平成28年度の目標達成度		平成29年度の事業の方向性	
							内容(複数ある場合は分けて記入してください)		達成度	達成度の理由	方向性	方向性の理由
				大戸		新規図書の購入および経年劣化した図書の廃棄等の図書整備、自由閲覧および希望者への図書貸出	B	利用者数及び図書貸出件数ともに、前年度と同程度であったため。	B	引き続き、昨年度とほぼ同数の参加数を目標として、事業を継続する。		
				大久保東		ボランティアによる読み聞かせ「絵本の会」「おはなしランプ」の実施	B	予定回数どおりに実施し、参加者数も前年度と同程度であったため。	B	引き続き、昨年度とほぼ同数の参加数を目標として、事業を継続する。		
				岩槻		ボランティアによる乳幼児親子向け読み聞かせ「おはなし会」の実施	B	夏休み以外毎月1回、予定どおりボランティアにより実施できた。	B	読み聞かせボランティア団体と話し合って決定した。		
				仲本		幼児向け事業内での職員による絵本や紙芝居の読み聞かせ(毎日)の実施	B	目標どおり実施し、想定どおりの効果があった。参加人数10,639人。	B	引き続き、継続していく。		
				尾間木		ボランティアによるおはなし会(月1回)の実施	B	目標どおり実施し、想定どおりの効果があった。参加人数90人。	B	引き続き、継続していく。		
						地域ボランティアによるおはなし会の実施	B	定期的開催し、親子や小学生が絵本に親しむ機会を提供したが、小学生向けのおはなし会の参加が少ない。より多くの子どもに本を楽しんでもらうため内容を再検討する必要がある。	B	より多くの小学生が本に接する機会を増やすよう努める。		
						保育雑誌12冊の受入れ	B	幼児向けと児童向け共、図書数を増やしたため	B	利用者の要望を取り入れながら充実させていく。		
※上記以外に、子ども読書に関する事業の実施がある場合は、下の行に追記してください。												